

---

# 不安

セカンドカラー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不安

### 【Zコード】

Z9130

### 【作者名】

セカンドカラー

### 【あらすじ】

あるカップルの日常の一コマ

「ちょっと話があるんだけど」

私にはどうしても気になる事があった。

彼と付き合いだしてからもうすぐ一年が経とうとしている。その間、私達はケンカをした事がない。それはとても幸運な事なんだと思うけど、彼があまりにも怒つたりしないから少し不安になってしまつ。

「あなたって、怒つたりする事あるの？」

私は少し体を前のめりにさせ、彼の顔をじっとみつめてその表情を読み取る。つと見る。

「急にどうしたの」 そう言しながら彼はテーブルの上にあるおしごりを小心翼んでいく。落ち着かない時に現れる、彼の癖だ。

「私達、付き合いだしてもうすぐ一年だよね」

「うん」

「けど、ケンカとかしたことないじゃん」

「それは悪い事じゃないんじゃないかな」

「ううなんだけどや」

私は少しだけ彼に悪いかな、と思いつながら次の言葉を続ける。

「待ち合わせで遅れて来て、何にも言わないよね。待たされて文句の一つも言いたくならないの？」

「だって文句を言つ前に君が先に」めん、つて言つじやん

「そ、そつだつけ」

「うん」

「じゃあ、私つて自分で言つのもなんだけど、我儘じゃない？無理言つなよ、とか思わないの？」 「我儘な自覚はあるんだね」

「どういつ意味よ」

「あ、冗談だよ」

「で、思わないわけ？」「そりや少しさ思つけど。けど誰にでも我儘言つ子じやないつて知つてゐるから、僕に我儘言つ分にはいいんじやないかな」

少し照れた表情を浮かべて彼は私から視線を逸した。ちよつと我儘言つのはやめよつて、と反省しておぐ。

「じゃあ、もしね

少し意地の悪い質問をしてみる。

「もし私が浮氣したら、どうするつ？」

「な、何言い出すの」

おしほりを置む手を止めて、彼は私の顔を見る。彼の表情は明らかに困惑している。

「そ、そりや嫌だよ。けど、浮氣されるのは僕に足りない部分があるからだと思つから、まずは自分を磨くかな」

そつ言つて少し考えこんだ後、

「……浮氣してるの？」

彼が恐る恐る口を開く。母猫とはぐれた子猫の様に不安そうな彼の様子に、少し胸が痛む。

「もしも、の話よ。仮定の話。してないから安心してよ」

意地悪な質問して「めんなさい」と心の中で謝りながら彼に言つ。

「……よかつた。うん」

心の底から安堵している彼を見て、また少し心が痛んだ。ごめんね。

「どうして、わざわざからそんな事ばかり訊くの？」

彼は私に尋ねる。

私は正直に答える。

「やつぱり、付き合つてたら言いたい事言い合えない」とストレスとかになるんじやないのかな。私はあなたに不満はないの。けど、もし私があなたを怒らせる様な事を知らずにして、それを溜め込んでたりしたら嫌じやない？別に怒られたい訳じやないのよ。ただ、

もう少し怒つてもいいんだよ？」

私はどんな表情でそう言ったかわからない。

くだらない質問をしたバツの悪さで彼の顔を見れないでいると、彼の声が聞こえてきた。

「これから先も、僕は君と一緒にいたいと思うよ。だから仮定の話までして怒らせたりするのは、あんまり関心しないかな。仮定の話するよりも、次のデートの計画を立てた方が楽しいじゃない？僕も怒る時はちゃんと怒るから、もうこの話はやめよう。」

彼の声はいつもと変わらない調子だから、安心したのと同時に自分のバカさ加減にがっかりしてしまった。

彼の方をチラリと見ると、手持ちふさたなのか、またおしごりを小さく置み始めていた。

そんな彼の姿を眺めていたら、ふとある事に気付いた。

「ひょっとしてさ」

「なに？」

「私、今怒られてるのかな」

私の言葉に、彼は少し笑つただけだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9130/>

---

不安

2011年1月16日02時04分発行